

高島歴史民俗資料館 見て歩き

鴨稻荷山古墳 かちいなりやまこふん

高島歴史民俗資料館は高島市鴨2239番地に所在します。展示室には土中から出土した考古資料を中心に展示しています。特に、鴨稻荷山古墳と鴨遺跡は資料館の周辺に所在する古墳・遺跡ということで、多くの資料が展示されています。資料館から北へ150mの場所にある鴨稻荷山古墳は、明治35年(1902)8月9日に東を走る道が県道に昇格するための改



資料館から鴨稻荷山古墳・県道23号線を望む

修工事の際、石棺が発見されました。その石棺の内側は朱が塗布され、金色に輝く副葬品が納められていました。副葬品の中から垂飾すいしやくの金製耳飾りと金銅装の環頭大かんとうちうだい刀の柄頭かぶがしらなどが取り出され、現在東京国立博物館に収蔵されています。大正11年(1922)から12年にかけて現京都大学が調査に訪れて、その時出土した副葬品類は、京都大学総合博物館に収蔵されています。また、数点の副葬品は調査地の鴨地域に伝えられ、現在資料館に展示しています。その中で、金銅製冠・飾履しやくり・みずら飾かざり髪飾りかみざりの3点セットのいずれかの破片と考えられる小遺物を展示しています。

鴨遺跡

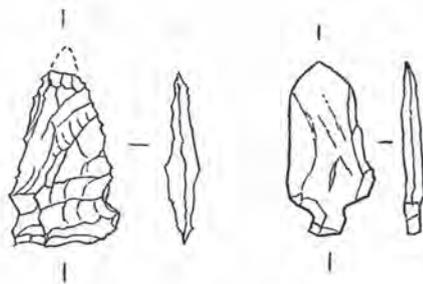
鴨遺跡では、昭和54年(1979)に施工された鴨区のほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査によって、平安時代前期の緑釉陶器・灰釉陶器・土師器・木簡・木沓・木製品等が大量に出土しました。遺跡

の性格については高島郡衙ごんが(地方役所)説が有力です。現在、遺跡は資料館から南約400m離れた水田下に保存されています。

南市で発見された石鏃 せきせき

他の展示品で注目されるのは、南市在住の方から寄贈されたアメリカ式石鏃(長さ3.6cm)です。アメリカ先住民の使っていた鏃やじりに形がよく似ていることからこのように命名されています。打製の石鏃の基部両端付近にえぐりが入られているのが特徴です。日本列島での所属時期は今から約2千年前の弥生時代と推定されます。石材はチャートで打製石器に分類されます。最近、同じ方からもう1点石鏃と考えられる遺物が寄贈されました。図のとおり、小型品で茎を作り出しているように見受けられます。形は凸基型ちつきがたをしています。磨製石鏃凸基型の製作上とも考えられ、擬石器ぎせきぎ(長さ3.4cm)と呼んでよいものと考えます。小さ

い遺物ですが、古代ロマンを感じる逸品です。



南市表面採集石器図
左：アメリカ式石鏃 右：擬石器

問 高島歴史民俗資料館
☎(36)1553

編集 雑感

新年を迎えて約1か月が経ちましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

新しい年になってしばらくは趣味や習い事など何かを始めるのに最適な時期ですね。私はひとまず正月太り解消に取り組みたいと思います…。

何かを始めることはエネルギーが必要ですが、取り組んだ分だけ達成感を得ることができるので、皆さんも何かチャレンジしてみたいでしょうか？(K)